富士通／日本オラクル

富士通のプラットフォームとオラクルの最新DBクラスタリング技術により星光堂の物流基幹システムを刷新

富士通と日本オラクル(以下、オラクル)は、星光堂の物流基幹システムを再構築し、2004年10月に稼働を開始した。新システムは、富士通とオラクルの最新技術を用いて、富士通がシステム基盤とバッチプログラムを開発した。また、業務アプリケーションについては、星光堂のグループ企業であるプラネットが構築を担当している。

星光堂は音楽・映像ソフトを主に扱う卸売業者として、業界最大規模の在庫数量を保有し、約4,000店という業界最大規模の得意先様に対して物流業務を行っている。同社は事業の発展と拡大に伴い、お客様の様々なご要望に応えるため、今回の新システム構築を決定した。

新システムは、物流システムとして安定稼働が最重要であった。そのため、万が一障害が発生しても速やかなリカバリーが可能であること、メインフレームの資産を生かした連携が可能で、運用保守費用が大幅に増えないこと、また、富士通のIT基盤で実現する高性能・高信頼・高品質なソリューションとオラクルとの協調関係、そして富士通RACインテグレーションセンターでの活動やシステム構築サービスでの実績と高い技術力などが評価され、富士通とオラクルの最新技術が採用された。

新システムのインフラは、富士通のIT基盤TRIOLEの主要製品で構成されており、なおかつデータベースソフトには「Oracle Database 10g」が採用されるなど、多くのオラクルの技術や製品が採用されている。

星光堂は、現在メインフレームで稼動している各システムを順次オープン化して、新システムの運用管理機能を充分に活用してコストを削減していく予定である。

富士通　E-mail：primeserver@fujitsu.com
日本オラクル http://oracle.co.jp

沖電気工業

「CTstage 4i」によるIPコンタクトセンタシステムを住友信託銀行に納入し、銀行業界初の100席規模IPコンタクトセンタを実現

沖電気工業（以下、沖電気）は、住友信託銀行にCTIサーバ「Ctstage 4i for .NET（以下CTstage 4i)」をベースとしたコンタクトセンタシステムを納入した。2004年12月よりシステムの本格稼動を開始し、120席から運用している。CTstage 4iのソフトスイッチタイプを導入することでIPコンタクトセンタの機能を実現し、お客様とのより密接な関係作りに貢献する。銀行業界で100席規模の本格的なIPコンタクトセンタが稼動するのは今回が初である。

多くの金融機関ではリテールバンキングを強化する動きが活発化している。住友信託銀行では、リテール事業戦略として、個人のお客様への商品・サービスの充実と利便性をさらに向上させるため、営業チャネルの柱の一つであるダイレクトチャネル強化を目指し、コンタクトセンタシステムを再構築した。これにより、テレフォンバンクやインターネットバンクの各サービス操作などに関する問い合わせを受け付けるヘルプデスクなどのインバウンド業務に加え、電話の発信を自動化するアウトバウンド業務を行っている。また、一元化された顧客データベースとの連携やCTI機能により、お客様の情報を見ながらの顧客対応が可能である。さらに、メンテナンスの容易性、柔軟性、Windowsベースによるコンピュータとの優れた親和性、ミッションクリティカルなコンタクトセンタ業務に求められる信頼性等も実現した。

住友信託銀行ではCTstage 4iを採用したことにより、営業店や別拠点からコンタクトセンタ機能を利用することができ、オペレーター席の増設など、設備の自由な配置が容易となり、システム導入時には予測が難しい変化にも柔軟に対応することが可能となった。

金融ソリューションカンパニー　TEL：03-5440-4613

NECインフロンティア

オリックス・レンテックの全国27拠点に「KDDI-IPフォン セントレックス（タイプ1）」サービスを利用したVoIP電話内線網システムを構築

NECインフロンティアは、オリックス・レンテックの全国27拠点を結ぶVoIP電話内線網システムを構築した。新システムでは、KDDIの提供する法人向けVoIP電話サービス「KDDI-IPフォン セントレックス（タイプ1）」を利用し、オリックス・レンテックの本社および全国の支店・技術センター等を結ぶVoIP内線網を構築している。各拠点には、NECインフロンティアのオフィスコミュニケーションゲートウェイ「Aspire」を導入し、AspireにKDDIのVoIP回線を直接収容している。

オリックス・レンテックは各種電子計測機器をはじめとした最新鋭の機器レンタルを手がけており、同社の拠点間では内線通話が全通話のおよそ50％強を占めている。これまでも費用削減を図るべく従来型音声VPNによる全国内線網を構築していたが、さらなるコスト削減を目指してVoIPによる新しい内線網構築を検討し、今回の新システム構築が進められた。

KDDIのIPセントレックス（タイプ1）サービスを利用することにより、従来と同様の独自の内線番号体系で、かつ、運用方法もほとんど変えることなく、VoIP内線網を構築することができる。これにより、従来と比べ年間約3,000万円程度のコスト削減が可能となる。一方、Aspireの導入により、VoIP回線を直接収容しながら既存の電話システムの資産を活用することも可能である。

オリックス・レンテックは新システム導入により、コスト削減効果に加え、主に拠点間の転送時に発生していた音声品質面での問題も解決し、顧客からの電話を支店間で内線転送する際もクリアな音質を確保できるなど、顧客へのサービス向上にも寄与している。

販売推進本部 ネットワーク販売推進本部／
TEL：03-5282-5823

日本ヒューレットパッカード

横浜市立大学大学院がポスト・ゲノム解析に日本HPのLinuxクラスタシステムを導入

日本ヒューレット・パッカード（以下、日本HP）のLinuxハイパフォーマンスクラスタ「HP　XC3000クラスタ（以下、XCクラスタ）」が、横浜市立大学の大学院のポスト・ゲノム解析研究用に採用され、本格稼動を開始した。横浜市立大学では超並列処理による高速処理を行うため204ノード（408CPU）構成の大規模クラスタを導入し、以前の10倍以上の演算処理（2.4TFlops）を実現した。

横浜市立大学大学院総合理学研究科の生体超分子システム科学専攻は、ポスト・ゲノムといわれる生命現象に関わるタンパク質や遺伝情報を蓄えるDNAなどの構造と機能、またそれらの相互作用の解明を進める研究を行っている。XCクラスタは同専攻の、特に情報科学分野において、たんぱく質の立体構造に関する情報、分子シミュレーション法に基づく分子構造の予測や、遺伝子の一次構造に基づく遺伝子機能の解析に利用される。同専攻では、より高速なたんぱく質の構造解析や、より大規模な分子シミュレーションを行うことのできるシステムが必要と判断し、今回のXCクラスタ導入に至った。

今回稼動したシステムでは、より高速な処理が可能となった。また、管理が容易で運用コストが抑えられるため、ITのコスト削減につながった。さらに、システムを一元化した管理製品により、運用管理が容易となった。

横浜市立大学は、日本初のHP XCクラスタの導入・稼動先となる。今回のシステム構築では、クラスタ部分の構成・保守を日本HPが行い、システム全体の調達ならびにSIは日本HPとHPC（ハイパフォーマンス・コンピューティング）分野で提携関係にある住商エレクトロニクスが担当した。

HP　Directplusコールセンター　TEL：03-5304-6777